

研究データ×生成AI (RAG) 最前線：花王のChatSense導入と知見探索の未来

花王の課題とChatSenseによる解決

膨大な研究報告書の埋没と、異分野データの読み込み負担



従来のキーワード検索では目的の知見に辿り着けず、専門外の文献調査に多大な負荷がかかっている。



Box直結のSaaS採用により
低コスト・短期間で全社展開



大容量・国表入り文書をそのまま参照できるChatSenseを活用し、ゼロからの開発を回避。



組織の壁を越えた
「思いもよらない知見」への到達

異動直後の過去知見の即時把握や、AIとの対話による新研究テーマの発掘・提案が定着。

Purpose: 他社における研究開発データ×生成AIの活用状況と比較

企業名	アプローチ	主な成果・目的
花王	SaaS活用（ChatSense / Box連携）	異分野知見の探索、新研究テーマ提案
ライオン	内製（LINK Chat / LION LLM）	文書取得時間を約1/5に削減
資生堂	共同開発（VOYAGER）	異分野技術の融合による新処方開発

研究AIの業界動向と今後の展望

効率化から「新価値の発見」へシフトし、手法は二極化



内製とSaaS活用に分かれる中、単なる時間短縮から異分野技術の融合による新製品創出が焦点に。



2～3年で「研究エージェント」やMI（素材開発AI）連携へ進化

社内文書・論文・特許の自動横断探索や、数値データ（MI）と文書知の統合が進む見通し。



差別化の鍵はツール選定から「データ構造化」と「知財管理」へ
営業秘密の厳格なアクセス権管理や、AI対話から生まれた発明の権利化運用が必須となる。